福徳岡ノ場から噴出したマグマのかけら

ジオパークまちづくり課 主査（学芸員） 町（まち） 澄秋（すみあき）

福徳岡ノ場の噴火

2021年8月13日～15日にかけて東京の南約1300キロにある海底火山、福徳岡ノ場が噴火をしました。噴煙は最大で1万6000メートル以上の高さまで上昇し、明治以降に発生した日本列島における噴火の中では最大級の噴火で、1914年の桜島火山大正噴火に次ぐ規模だったそうです。

この場所は、もともとの水深が30メートルほどでしたが、噴火に伴って噴出物が火口の周りに厚く堆積し、新しい島がつくられました。また、噴出した多量の軽石が海面を広く覆いました。

スカスカの軽石

軽石はマグマが急冷されて固まったものです。地下のマグマには大量のガスが溶け込んでいますが、噴火に伴って、マグマからほとんどのガスが放出されます。今回のような爆発的な噴火では、振った炭酸飲料のフタを一気に開けるのと同じように、マグマに含まれたガスが膨張しながら一気に空気中に飛び出します。すると、ガスの部分が穴となって固まったスカスカの軽石となります。こうしてできた軽石の穴は内部で複雑に入り組んでいるため、簡単に水が入り込むことができず、水に浮かびます（長い時間をかけて穴の中に水がしみこんでしまえば沈みます）。

海面を埋め尽くした軽石（軽石ラフト）は、海流によって西へと移動し10月には北大東島・南大東島、奄美諸島群喜界島、奄美大島、沖縄本島などへ次々と漂着しました。

そんな火山から噴出して沖縄へと流れ着いた軽石が、知人の手を経由して、勝山市役所のジオパークまちづくり課に一つたどり着きました（今のところ勝山唯一か!?）。触ってみたい方はぜひ訪ねてみてください。

ガンガンいこうぜ！ 勝山ちおこ③

地域おこし協力隊
中島（なかじま） 麻衣（まい）さん（38）

そば殻のアップサイクルで地域おこし

地域おこし協力隊に赴任して1年半、「世界で最もクリーンな街」世界第9位の勝山の美しい景色や空気を感じながら、「気候変動の解決×地域おこし」を軸に活動しています。

今年の8月、国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は、「人間の影響が大気、海洋及び陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がない。大気、海洋、雪氷圏及び生物圏において、広範囲かつ急速な変化が現れている」と強い調子で、従来より踏み込んで断定しました。

この報告書は今までになく、温暖化のもたらす壊滅的な打撃を明確に断定しています。

「買い物は投票だ」という言葉があります。

自分がこれまでに選んできたものが今の世界を作っているのであれば、今後は一人ひとりが選択を見直し、自分に矢印を向けることで全く違う世界に変化させることができます。

地球環境を守ることは、自分や自分の大切な人の平和と未来を守ること。

そのために、まずは現状を知って欲しいと思い、主に企業向けに講演活動やヴィーガン料理のワークショップを行ってきました。

また、私はお蕎麦が大好きなのですが、今最も注力しているのはそば殻のアップサイクル（＊）プロジェクトです。

「蕎麦がおいしい県No.1の福井県」「自然エネルギーを利用した環境にやさしい勝山雪室蕎麦」を広めることと、有限である地球の資源を有効に活用することで、気候変動の解決×地域おこしに取り組んでいきます！

＊廃棄物や不要になったものに手を加えて、価値を高めること

HOT話題

共生社会実現へ モザイクアートを披露

■12月21日　勝山サンプラザ

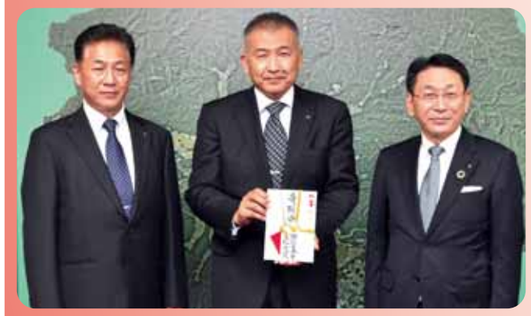
市内の小学4年生と障がいのある方が描いた約700点の塗り絵を勝山高校の生徒が組み合わせた大きな魚のモザイクアートの除幕式が行われました。

平泉寺小学校が受賞報告

■12月9日　市役所

池ケ原湿原の環境保全に取り組む平泉寺小学校がグッドライフアワード環境大臣優秀賞およびESD大賞小学校賞を受賞し、市長に喜びの報告を行いました。

ご寄附　ありがとうございました



市の環境保全事業に役立ててほしいと、越前信用金庫から70万円をご寄附いただきました。

福井県農業協同組合から市内全小中学校の児童生徒1,511人に対し、福井県産米「いちほまれ」をご寄贈いただきました。

おめでとう　山口茜選手が世界選手権で初優勝

12月にスペインで開催されたバドミントンの世界選手権において、勝山市出身の山口茜選手が初優勝を飾りました。世界選手権での優勝は、日本人二人目となる快挙になります。

山口選手は、1月7日に勝山市役所を訪れ、優勝報告を行いました。報告のなかで「いつも応援してくださる多くの市民の皆様に喜んでもらえるよう、これからもがんばります」と語りました。今後の山口選手のさらなる活躍を期待しています。